

七小校長室便り

開校52年目

国立市立国立第七小学校

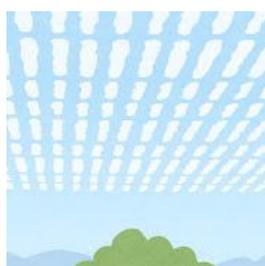
校長室便りNo.6 令和6年(2024年)9月27日

9月も下旬を迎えます。

今年は、大きく強い台風がたくさん発生したり、雷の発生率が例年になく高かったりなど、気候変動に関わる自然現象として、ニュースでもよく取り上げられています。私も、感じていることがあり、雨の後の虹や雲間にできる虹状の「彩雲」をよく見かけました。おそらく、空気中の水蒸気量が高いのだと思いますが、とにかく、例年にはあまり多くない自然現象を見ることができました。



特に、地震の被災地である能登地方の皆様には、先日の三連休の大雨による被害は、筆舌に尽くし難く、心からのお見舞いを申し上げるとともに、一刻も早い被災者への対応と復興への取組が行われることを衷心より願わずにはられません。



さて、日本人は、昔から、四季折々の季節の中で感じられる自然の豊かさや風情と呼ばれる感覚を大事にしてきていることもあり、恐怖を感じてしまうような自然の有り様に、日本人特有の感性を感じられる機会が少なくなることは、とても残念な思いです。

9月下旬となり、これから秋が本格的に深まっていくシーズンです。少しでも、日本の自然の豊かさやすばらしさを感じられる、そういうニュースや機会が多くあることを願っているところです。

季節とともに充実の2学期となるよう、本校の教育活動においても様々な工夫を行いながら、児童の成長を図ってまいります。

先週の学校公開から

9月19日(木)と20日(金)の2日間、平日開催の学校公開を行いました。平日に行う学校公開は、ある意味で子供たちの日常の学校生活に近い様子が見られるように思います。保護者の方からのアンケートの声にお応えする形で、昨年度から平日開催の学校公開を行っていますが、これからは土曜日開催と平日開催の併用を考えながら、多くの保護者や地域の方にご来校いただけるよう取り組んでまいります。

今回の学校公開は、4校時と5校時に開催しましたが、たくさんの保護者の方にご来校いただきました。夏休みを挟むと、子供たちの変化や変容が大きく、私たち教員も驚くようなことが多くあります。教員をしていると、この変化や変容に驚くとともに、小学校時代特有と言っていい成長でもあり、夏休みが明けて子供たちに会った時の嬉しさは、今も心に刻まれています。

保護者や地域の皆様には、子供たちの成長をどのように感じていただけたでしょうか。七小は、これからも、保護者や地域の皆様と一緒に子供たちを育て、様々な工夫と努力を重ねてまいります。また、すぐーるでお知らせしたとおり、励ましやご感想をアンケートにて、お寄せいただけましたら幸いです。アンケートの締切りは、10月4日(金)までです。どうぞ、よろしく願いいたします。既にご回答いただいている方には、感謝申し上げます。

運動会に向けて

今週の9月24日(火)から、10月19日(土)に開催する第52回の運動会に向けて、本格的な練習の期間が始まりました。本校の運動会は、コロナ禍の中で様々な検討し、内容についても変化をさせ、新しい形で実施をしております。

これまでもお知らせしてきておりますが、改めて、ここで大切にしていることをお伝えいたします。



○午前中開催について

- ・学習指導要領に基づいて、表現と走ることが位置付けられていることから、表現と徒競走に取り組んでいることにより、多くの時間がかからないこと。
- ・春開催や秋開催においても熱中症対策が必要であり、午後にかけての開催は危険性が高まること。
- ・運動会までの練習においても、熱中症対策が必要であり、競技数が多いことにより、安全で十分な時間の確保が難しいこと。

○勝敗を付けないことについて

- ・団体競技において、学校全体として、集団行動が苦手な児童や配慮の必要な児童が多数いることから、団体競技の内容を表現等の中に組み入れる等の工夫をして、多くの児童が自分らしく取り組めるようにしていること。
- ・一人一人の児童のそれぞれが目指す目標をもたせることにより、どの児童にとっても達成感を得られる環境づくりを目指していること。

以上のようなことを大切にしながら、運動会の在り方をコロナ禍の中で見直し、現在の形式で実施しています。これから先において、七小の子供たちの成長や変化、学校環境の変化に応じて、運動会の在り方を検討し、新しい取組が考えられていくところとなります。

また、今年度においては、6年生の活躍の場として、コロナ禍以前にも取り組んでいました運動会の係活動を実施いたします。6年生たちが中心になって運動会を運営していきます。応援合戦も行います。どうぞ、ご期待ください。

きこえとことばの教室への入級システムの変更について

本校には、聴覚及び言語障害に対応して指導する「きこえとことばの教室」がありますが、担当している先生方は、全ての先生方が特別支援学校等の特別支援教育に関わる免許を取得しているわけではありません。小学校全科の免許をもちながら、きこえとことばの教室に配属になることで学びを深め、指導をしている先生方も多いところです。指導には、とても専門性がいるので、授業で実践を積みながらも、難聴・言語障害に携わる先生方が学ぶことができる研修会において、何度も参加しながら、自身の指導や技量を高め、子供たちに向き合っています。

きこえとことばの教室には、七小のお子さんだけでなく、国立市内の各小学校から通級しているお子さんもおり、他市から通級されている方もいらっしゃいます。また、更に指導においては、各校の担任の先生との連携が不可欠であり、保護者と担任、そして、きこえとことばの教室の教員の連携が重要となります。

そこで、この9月より、深くしっかりとした連携を行うため、まずは、きこえとことばの教室を希望される保護者と各校の担任との連携を基に、各校の校内委員会で検討を行っていただき、その後、きこえとことばの教室の方で児童の状況を把握して、入級等の判定につながる小委員会を開催し、判断していくことになりました。多くの連携がしっかりと密接になることによって、お子さんにとって、効果のある学びになることや整えられた環境となることを目指して、取り組んでまいります。ご理解の程、よろしく願いいたします。七小の保護者の皆様においても、まずは、担任にご相談をお願いいたします。

【校長のつぶやき】

前回の校長室便りには、生活科の導入時期のことについて、私の経験を通してお伝えしました。今回は、平成14年度(2002年度)から本格実施となった学校週五日制に関わる私の経験や取組の様子をお伝えしたいと思います。

学校には、校務分掌と呼ばれる教職員の役割分担があります。例えば、教務主任の下には教務部があり、生活指導主任の下には生活指導部、特別活動部主任の下には特別活動部、研究主任の下には校内研究部など、組織的に仕事ができるように設定しています。(部の名前や設置されている部は、学校により違いがあります)

当時の私は、恵まれていたのだと思いますが、初任者として配置された学校で、3年目から教務主任の任を受けました。あまり無いことだと今の立場になると思いますが、当時の学校は、小規模校でもあり、若手の先生に様々に経験をしてもらおうという話もあって、未熟者でしたが、頑張っ

て取り組みました。平成5年度(1993年度)頃から、各自治体や各校では、学校週五日制の前段階として、各週の土曜日のお休みの設定を考えることになり、今のようにワードやエクセルのようなものが普及していない時でしたので、行事予定表についても、多くが手計算と手書きで作られました。学校便りも、学級通信等も全部手書きで、印刷機もまだまだ性能が良いものも少なく、今と比べれば、大変な作業だったなと感じます。(当時は、当たり前でした)

土曜日がなくなること、授業をする時間が少なくなることから、当時の週の時間が平均5時間授業の設定が多かったと思いますが、週により6時間目の設定を作ることや6時間目の授業時間の開始日を学年により変える等、今の学校における週時程の基になっていることが多くあります。

今は、土曜日のお休みが当たり前になっています。そして、そのねらいである「子供たちが、家庭や地域社会で過ごす時間を増やし、子どもたちの生活をゆとりと潤いのあるものにする」に努力してきたわけです。私の世代の教員仲間は、そういう教育改革のど真ん中にいました。そして、今も新しい教育を創造する責任を負っていることを実感している毎日です。

